

はじめに

私が大学病院に勤めていた頃に、放射線部受付の事務の人たちが検査内容をしっかり理解していないために患者さんの質問にしっかり答えられなかったり、他科の医師が被ばくについて患者さんに説明できずに患者さんが不安をいだきながら検査に来ることなどがときどきありました。また、CT 検査と患者さんを動かさないために仕方なく病棟で撮影するポータブル撮影の依頼が出ている患者さんが一人で歩いてCT 検査に来るなど、とんでもない依頼をときどき見受けました。こうしたことは、研修医や医師、看護師が放射線や放射線部（画像診断部など）について無知のために起こっていることだと思います。

この本の内容は、最初の項目では事務職員、いろいろな職種の技師から医師まで医療関係者が必要な放射線部（画像診断部など）の構造などやいろいろな検査についての概略的な説明が書いてあり、次の項目では「放射線とはどんなものなのか」、「X線写真（レントゲン写真）は撮影条件でどれほど違うのか」など事務職員から看護師、診療放射線技師、研修医、医師までに必要な知識が書かれています。最後の数項目は事務職員、看護師などでも知っていてもよいが、診療放射線技師、研修医、医師は知っておくべきことや知っていて欲しいことが書かれています。

こうした内容から、病院など放射線を使う医療関係施設での事務職員から医師までのすべての職員に、入職時講習などに参考資料として配布して頂いて、この内容を学んでいただければ、より質の高い、患者さんからより信頼される施設になるのに少しでも役立つのではないかと考えております。

平成 25 年 2 月吉日

今西好正